

さて、新年第1回目のテーマは、

「家族の絆（きずな）と家計」といたしました。

家族の関係と家計について、
考えてみたいと思います。

子どもは親を見て育ち、親は子供に学ぶ

私は、FP業を創立して、
ことしで、17年目になります。

これまで業務を通して、
さまざまな方、
また家族ともお会いしました。

また、私自身、
二人の子どもを持つ親として、

子どもは親を見て育ち、
親は子供に学ぶ

と、最近つくづく思うようになりました。

前にもお話したと思いますが、

親がお金を貯めることを
苦も無く習慣としている家庭は、

子どもは、
親と同様な方法でないかもしれませんが、

お金を貯めることに

抵抗感はなく貯めていきます。

また、大きな意味で、
子どもが幼いうちは、

親の日頃の口癖を、

子どもは、何のためらいもなく、
人と話をする時に、
使うこともあり、

私自身、
わが身を振り返ることも、
しばしばありました。

「おふくろの味」があるように、
その家庭ごとの独自の考え方が、
夫婦の育ったそれぞれの実家の影響も含め、
必然的に時間をかけて創られ、
それを子どもが、
時には無意識に引き継ぐ、
つまり、家族の絆も作られていくのだ。
と、私は思っています。

従って、
となり近所の家庭の生活が、
うらやましく真似ようとしても、
経済的な面を含めて、
そう簡単にできることではないのです。

家庭は、相続のひとつ

このように創り上げられた、
いわば家庭のオリジナリティは、
親から子どもに伝えていくものであり、
また、子ども自身が、
自分に適したようにカスタマイズして、
受け継ぐものでもあります。

いわゆる、金融や不動産といった資産を、
相続するのとは異なり、

お金で測る価値で判断はできない、
また、お金を支払えば買えるものでもない、
その家庭に受け継がれていくもので、
価値ある相続財産といえるでしょう。

夫婦の考え方は同じでないことが前提で考える

とはいうものの、

いわば、他人同士が夫婦になり、
生活を始めれば、

今までの育った環境も違い、
考え方も違うところもあるでしょう。

例えば、私が住宅の購入を検討している、
ご夫婦の相談を受ける時、

私に会う時まで、
ご夫婦の意見が統一されていることが多いです。

しかし、そこまでには、
相当時間がかかったと聞いたこともあります。

上述したように、

お金を貯めることに慣れている家庭と、
お金を貯める考えのない家庭と、

お金を貯めることへの考え方が違う夫婦が、

住宅購入のために、
頭金を貯めるにしても、

夫婦の片方は、

頭金を〇〇万円貯めるために、
毎月〇万円を〇年で貯める。

だから、
これまでの家計からの支出から、
頭金貯蓄に回すので、
毎月〇万円分、外食費などを削ろうか、

と、頭金貯蓄をするための提案をします。

夫婦のもう一方は、

特に決まった金額ではなく、
ボーナスとか、
毎月残ったお金を貯めていけば良いのではと、
言ったとします。

この双方の考えを夫婦で調整して、
お互いに納得のいく方法で、
お金の貯め方を決めることが大切なのです。

この例は極端かもしれませんが。

しかし、
夫婦ともに収入を得る共稼ぎが、
普通になったこの時代では、

お互い、自分の考え方を主張するばかりではなく、
相手の考え方も受け入れないと、

結婚後の積もり積もった不満が爆発して、

勢い余って、
「別れる」といった事態にならないよう、
子どもためにも、
気を付けなければならないご夫婦も
いるかもしれません。

常に家計の財布はひとつ

また、このところ、
共稼ぎのご夫婦でも、

意識的に家計の財布は一つ、

という家庭が、
一時の時期の比べて
増えてきたように思います。

現役の間は、
夫婦別々の財布でも、

通常、年金生活に入れば、
お互いの年金を足さなくては、
生活ができないのが現状です。

また、現役の時代に
老後の生活のために貯めたお金を、
計画的に、
取り崩しながらの生活になるでしょう。

老後の生活の準備をするためにも、
家計の財布はひとつの方が良いのです。

家計は家族で築いていくもの

ところで、家族の考え方は、

何年も同じ屋根の下で暮らし家族だからこそ、
理解できることも多くあります。

改善することも出てくるでしょうが、
長年の習慣があったからこそ、

より良い方向に改善できます。

子どもは、ある程度の年齢になれば、
親に、適切な意見を言えるようになり、
親は、その子どもを尊く思うでしょう。

また、子どもは親や兄弟
広くは親戚を含めた家族から学び、
独自の考え方を持つようになり、

そこで身についたことに、
友人など親しくなったいわば他人の考えも、

カスタマイズして、
成長するとともに、
自身の考え方も成長させるのでしょう。

家庭にしっかりした考え方があれば、

生涯、様々な問題が起きても、
その時に対応できる手段も身につけている。

家計についても同じことが言えます。

つまり、
家計も家族で築いていくものでしょう。

*****:
■「人生の添乗員 (R)」からのワンポイントメッセージ
*****:

他人がうらやましく思う生活を、

あなたと家族はしていますか？

ないことはありません

なにかあります！

*****:
■人生の添乗員 (R) 牧野寿和のプロフィール
*****:

日本で唯一「人生の添乗員 (R)」を名乗れる

公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー

開業 17 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、
日本の方と他国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。
そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003年 牧野FP事務所を創業。
2018年から牧野FP事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ900件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・NPO法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）協会 CFP（R）認定者
- ・1級ファイナンシャル・プランニング技能士（資産設計提案業務）
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ〜テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<出版>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談を受けている方は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
ご紹介をいただいて、首都圏や関西にも
足を延ばす機会が増えてきました。

「人生の添乗員（R）」は、どこまでも行きます。

他人を気にすることなく、
相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

*:

■ 編集後記

*:

ことしは曜日の関係もあり、
新年号の発行が遅くなりました。

あらためまして今年もよろしく申し上げます。

ここのところ、
私と同年代の方の定年退職、
また再雇用後の退職と

まさに、人生 100 年時代、
次のステージに移られる方の
老後の生活資金の相談も多くなりました。

間違いなく言えることは、

年金生活に入っても、
家計の支出は、
現役時代と変わらない。
しかし、収入は減ることです。

変わらないことは、
家族は、成長していくことです。

【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

ことしもお愛読のほど、
よろしくお願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。
こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
